

平成 26 年度学校法人智香寺学園事業計画

I. 法人の部

2013 年 学校法人智香寺学園は創立 110 周年を迎えました。この 110 周年を契機とし、平成 26 年度（一部平成 25 年度）より様々な記念事業を展開し、更なる発展を目指して参ります。


主な記念事業の内容

1. 埼玉工業大学「ものづくり研究センター」新築・「図書館」の増築及びリニューアル工事
ものづくりの原点を追求すべく研究・実習施設の充実と、学生にとって使い勝手がよく、地域のコミュニティとしての役割を担う図書館の大幅改修を行う。
2. 正智深谷高校校舎耐震及びリニューアル工事
平成 25 年度より 3 年計画でスタートした 1 号館耐震改修工事に続き、2 号館を中心とした校舎の耐震及びリニューアル工事を実施する。
3. 電気自動車プロジェクトの実施
文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に応募し、研究プロジェクト「地域連携による次世代自動車向けの革新的なものづくり研究拠点」を学部横断的な全学組織として立ち上げ実施する。
4. 学内共同研究プロジェクトの募集
埼玉工業大学発の創造性に富む革新的な研究を推進し、本学の研究拠点を構築するため、共同研究チームへの支援を行う。
5. 松川記念奨学金の創設
大学・高校の在学学生を対象とし、学業成績とは関係なく、自分の夢・目標に向かってどれだけ努力しているかを評価し、更なる成長を促すとともに、周りの仲間にやる気と勇気をもたらしていることを選考基準とする。
6. のめりコンテストの実施
ひとつの物事にのめり込んで、その分野で将来大きな成果を出すであろう高校生の発掘を目的とし、広く募集を行う。

II. 大学の部

1. 魅力ある大学づくり

創立 110 周年を機に、「新しい価値の創造」を目指し、新ロゴ・スローガン等を制定した。

コミュニケーションロゴ「」、メッセージ「自分が変わる物語が始まる」、イラストロゴなどとともに、埼玉大宣言、2020 年ビジョン等を公式に発表し、埼玉大元年として新たにスタートした。

卒業生、在学学生が本学を母校として誇れる大学づくりとして、少人数教育、面倒見が良く、就職に強い大学を目指すための学生サポートの強化と、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の社会人基礎力を備えた人材育成を引き続き目指して行く方針。

2. 学部教育

- ・質の高い大学教育推進プログラムへの取組
- ・学生プロジェクトを始めとした学生支援のより強化
- ・退学者対策の強化

3. 学生募集計画

平成 26 年度生の募集は現在進行中であるが、本学入学定員 500 名の確保は確実な状況である。しかし、中身を見ると工学部が順調に志願者を増やし、定員を大幅に上回る入学が見込める中、人間社会学部は情報社会学科・心理学科とも低調に推移しており、定員の確保が厳しい状況にある。

平成 27 年度生の募集に向け、学部・学科構成は今年度を踏襲とするが、現状の募集状況から要因を究明し、将来に向けた適正な学科構成、定員構成などの検討を早急に開始したい。なお、広報活動においては、新しい本学のコンセプトを前面に打ち出し、特色をアピールして行く方針である。

(A) 大学院

工学研究科		人間社会研究科	
専攻名	募集定員	専攻名	募集定員
(博士前期課程)		(修士課程)	
システム工学専攻	6名	情報社会専攻	15名
電子工学専攻	7名	心理学専攻	10名
応用化学専攻	7名		
小計	20名	人間社会研究科合計	25名
(博士後期課程)			
システム工学専攻	2名		
電子工学専攻	2名		
応用化学専攻	2名		
小計	6名		
工学研究科合計	26名		

(B) 学部

工学部		人間社会学部	
学科・専攻名	募集定員	学科名	募集定員
機械工学科		情報社会学科	100名
(機械工学専攻)	70名	心理学科	60名
(ロボティクス専攻)	40名		
計	110名	人間社会学部合計	160名
生命環境化学科			
(バイオ・環境科学専攻)	60名		
(応用化学専攻)	40名		
計	100名		
情報システム学科	130名		
(IT専攻)			
(電子情報専攻)			
計	130名		
工学部合計	340名		

4. 情報公開

平成 23 年 4 月 1 日付、学校教育法施行規則の改正に伴い、来年度も教育情報の公表、財務情報など、情報公開の拡充と、多くの最新情報の公開を引き続き実施する。

5. 研究計画

①地域連携による次世代自動車向けの革新的なものづくり研究拠点の新設

(私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・文部科学省補助金事業へ申請中)

研究期間 平成 26 年度から 5 年間を予定

研究課題 地域連携による次世代自動車向けの革新的なものづくり研究拠点

研究代表者 先端科学研究所長 巨 東英 教授

チーム 1 次世代自動車向けの新素材とグリーンエネルギー技術に関するイノベーション開発

チーム 2 次世代クリーンエネルギー自動車向けの超軽量車両と駆動制御システムに関する研究

チーム 3 安心安全快適な運転実現のための次世代自動車の通信制御及び知的電装に関する研究

総費用 建物（ものづくり研究センター）： 5 億 2164 万円

研究費・PD・RA 費： 2 億 8100 万円

②私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省補助金事業）

研究期間 平成 23 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

研究課題 機能的ナノ材料による新規な表面・バイオセンシング技術の創出

研究代表者 生命環境化学科 萩原 時男 教授

※【中間評価】研究プロジェクト（3 年目）の進捗状況報告書を提出。

③平成 26 年度科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請（増）を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

※平成 25 年度科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	学 科	代表者	25 年度 直接経費	25 年度 間接経費
基盤研究 (C)	新規	機械工学科	曹 建庭	1,500,000 円	450,000 円
基盤研究 (C)	新規	生命環境化学科	長谷部 靖	2,400,000 円	720,000 円
挑戦的萌芽研究	新規	機械工学科	石原 敦	1,100,000 円	330,000 円
挑戦的萌芽研究	新規	先端科学研究所	内田 正哉	2,700,000 円	810,000 円
若手研究 (B)	新規	機械工学科	長谷 亜蘭	1,800,000 円	540,000 円
若手研究 (B)	新規	機械工学科	安藤 大樹	2,700,000 円	810,000 円
基盤研究 (B)	継続	情報社会学科	佐藤 由美	2,000,000 円	600,000 円
基盤研究 (C)	継続	機械工学科	趙 希禄	600,000 円	180,000 円
基盤研究 (C)	継続	生命環境化学科	有谷 博文	800,000 円	240,000 円

基盤研究 (C)	継続	情報システム学科	渡部 大志	400,000 円	120,000 円
基盤研究 (C)	継続	情報社会学科	内田 法彦	1,400,000 円	420,000 円
基盤研究 (C)	継続	特任客員教授	井上 達雄	700,000 円	210,000 円
挑戦的萌芽研究	継続	心理学科	大塚 聡子	500,000 円	150,000 円
若手研究 (B)	継続	情報システム学科	大島 浩太	1,300,000 円	390,000 円
合 計			14 件	19,900,000 円	5,970,000 円

6. 産業技術展示会への研究展示計画

- ①埼玉県北部産業技術交流会出展 (10 月)
- ②諏訪圏工業メッセ出展 (10 月)
- ③埼玉県産業教育フェア出展 (11 月)
- ④埼玉県ビジネスアリーナ出展 (1 月)

7. 地域交流計画

- ①「市民のための公開講座及び心理セミナー」を開催する。
平成 25 年度 (実績) : 13 講座 19 コマ (10 日間開催)
- ②「子ども大学ふかや」の開催 (埼玉県教育委員会との協賛事業)
(子ども大学学長 内山俊一 学長 実行委員長 : 教育研究協力課 宮川芳伸)
平成 25 年度 (実績) : 深谷市内の小学生 4 年～6 年生、38 名参加
平成 25 年度 (実績) : 本学会場を中心に 5 日間開催
- ③彩の国大学コンソーシアムで公開講座の開催
(実績) 平成 25 年 9 月 4 日 (水) 川越西文化会館
テーマ: 心の中のお化け (心理学科 三浦和夫 教授)
- ④サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (JST への申請)
近隣中学校・高等学校とタイアップして理数系教育事業を展開する。
- ⑤サイエンスキャンプ (合宿型の体験教室) (JST への申請)
全国の高校生を対象にした 2 泊 3 日の体験型科学教室を申請
 - ・サマーサイエンスキャンプ (夏期)
 - ・ウインターサイエンスキャンプ (冬期)
- ⑥正智深谷高校を含め近隣高等学校との高大連携を推進する。
(協定校 : 平成 26 年 3 月現在 高校 23 校・専門学校 1 校)
- ⑦高大連携協定による学校評議員の推薦
 - ・埼玉県立熊谷工業高等学校 情報システム学科 井門俊治 教授
 - ・埼玉県立妻沼高等学校 生命環境化学科 熊澤 隆 教授
 - ・埼玉県立深谷商業高等学校 情報システム学科 井門俊治 教授
- ⑧深谷市との連携を推進するとともに各種イベントに積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学をアピールする。
 - ・ふかや市民大学 (生涯学習) へ委員及び講師の派遣
 - ・深谷市社会教育委員会委員の派遣
 - ・メンタルヘルス相談業務委託 (臨床心理センター) の継続
 - ・市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講 (臨床心理センター)
 - ・深谷市「砂ぼこり対策協議会」へ委員の派遣

- ・深谷市教育委員会と共催で「子ども向け科学講座」の開講
 - ・日本機械学会主催の「ものづくり教室」を児童向けに開催
 - ・彩の国いきがい大学熊谷へ講師の派遣
- ⑨長野県坂城町（坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校）との連携を推進する。
- ・坂城町合同企業説明会
 - ・さかき町企業（製造業）見学会
 - ・「さかき夏休み子ども体験教室」
 - ・「さかきふれあい大学」へ講師派遣
 - ・長野県坂城高校文化祭（葛尾祭）へ研究展示
 - ・長野県坂城中学文化祭「ものづくり教室」開催

8. 就職計画

（地域交流）

- ①坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携に関する事業
- ・坂城町企業見学会（9月に3日間実施予定）
 - ・坂城町企業の学内合同企業説明会参加（3月開催予定）
 - ・大学と坂城町企業との意見交換会及び企業見学会（10月開催予定）
- ②長野県との「ふるさと信州学生Uターン就職促進に関する協定における事業
- ・長野県内企業との情報交換会（10月開催予定）
 - ・長野県内企業の学内企業説明会参加（3月開催予定）
- ③群馬県中小企業家同友会との連携協定における事業
- ・群馬県中小企業家同友会加盟企業による学内合同企業説明会参加（6月開催予定）

（学生支援講座・ガイダンス）

- ①公務員対策講座（8月～9月、2月～3月開催予定）
- ②SITマイキャリアプラン（5月～9月前期分、10月～2月後期分実施予定）
- ③学年別就職ガイダンス（4月～2月複数回実施予定）
- ④インターンシップガイダンス（5月開催予定）
- ⑤埼玉県大学就職問題協議会主催：16大学合同企業説明会（8月開催予定）
- ⑥面接突破合宿研修（11月・2月開催予定）
- ⑦面接突破研修（12月2月 複数回開催予定）
- ⑧Uターン学生就職ガイダンス（11月開催予定）
- ⑨東京経営者協会加盟企業による出前講義（10月開催予定）

（学内合同企業説明会等）

- ①4年生向け合同企業説明会（6月・9月・10月・11月・12月・2月開催予定）
- ②3年生向け協会セミナー（12月開催予定）
- ③3年生向け学内合同企業説明会（3月開催予定）
- ④未内定者向け個別会社説明会（9月以降随時開催予定）

（保護者向け就職ガイダンス）

- ①4年生・3年生保護者向け就職ガイダンス（7月・11月開催予定）

(学生支援事業)

- ①ハローワークジョブサポーター相談 (4月～3月)
- ②キャリアカウンセラーによる相談 (4月～7月前期分、9月～3月後期分)
- ③工学部系学生対象工場見学会 (埼玉・群馬各2社見学予定)

(連携事業)

- ①ジョブサポーターキャリアカウンセラーによるセミナー (9月実施予定)

(情報交換会)

- ①各県及び情報サービス産業協会主催の就職情報交換会参加

Ⅲ. 高校の部

1. 生徒募集状況

今年2月22日に3度目の入試を終え、3月12日に最後の入試を残すのみとなっているが、2月末現在での状況をご報告させていただく。昨年は398名と、最近では最も多い入学者を迎えることができた。今年は昨年に比べると、やや苦戦している。本校だけを受験した、単願の受験者数は290名がすでに手続きを終えている。昨年同時期は294名だったので、ほぼ同水準である。問題は公立高校と掛け持ちをしている併願受験者数で、合格者数が887名と昨年同時期の1,103名から200名余り減少している。県北地域での中学卒業生が減っていることが最大の原因と考えている。また学力特待の金額を減らしたのが、影響している可能性もある。最終的な入学者数は、3月10日の公立高校合格発表、3月12日の本校の最終入学試験の結果を待たなくてはならないが、現時点では370名±10名と予想している。

2. 平成26年度学校方針

私たちの使命は、社会に貢献する人材を育成することである。社会が高校に寄せている期待に応え、明日の日本を担う人材を育てるという大きな責任を負っている。同時にこの学校をより良くすることは、在校生や卒業生に対して、私達に課せられた責務でもある。

社会に貢献する人材とは、しっかりとした知識と豊かな社会性、そして高い人格、さらには品格を備えた人物だと考えている。以下にそれらを実現するための、具体的目標を掲げる。

(1) 学力の向上

高校生に求められる知識を身に付け、学力を向上させることは、高校に課せられた最も基本的な責務であり、私達の本務でもある。学年団を縦軸に、教科団を横軸にし、お互いの情報共有を図りながら、すべての生徒が在学中に学力を伸ばし、進みたい進路に進めるようにする。

(2) 進路指導の強化

進路実績は受験生が学校を選ぶ大きな要素になる。本校の強みでもあるきめ細かな進路指導と、上記に掲げた学力の向上により、進学実績を更に伸ばしたい。なかでも4年制大学への現役合格率は維持してゆく必要がある。

今年度の数値目標を以下の通りとする。

- ①4年制大学への現役進学率80%以上。
- ②国公立大学の合格者数30名以上。

③埼玉大への進学者数 45 名超。

(3) 人格の形成

いかに高い学力を持っていても、人格が備わっていないでは台無しである。その意味で人格は基本であり、最も大事な要素である。本校では法然上人の生き方、教えを建学の精神にしている。これを浸透させ、具現化することで、より人格の高い、品格を備えた生徒を育てたい。

本校の強みのひとつに、生徒の礼儀正しさがあると考えているが、これは宗教指導と共に、生活指導のたまものでもある。高校時代にルールを守ることの大切さを学ぶことは、大変に意義があることだと考えている。指導に当たっては、力づくで規則を押し付けるのではなく、なぜルールを守らなくてはならないかという理由を添えて、教育するよう心掛けている。

(4) 社会人としての資質の醸成

社会で活躍し、貢献できる条件は、知識だけでは不十分であり、人格と社会性が備わっている必要がある。社会性で最も求められるのは、「自ら考え行動できる」ことである。そのような生徒を育てるためには、意識づけを行うと共に、自主的に行動する機会を多く与え、結果を評価することが大事だと考える。教室の中だけでなく、学校行事や部活を通じて、社会性を身につけさせたい。

(5) 募集・広報活動

平成 26 年度は教員と事務職員が一体となった入試広報室を設置し、募集活動の企画立案や調整業務等を行う。入試広報室の中に置いた広報チームは、学校の取り組みや日々の出来事を、ホームページ等を活用してより広く発信する。より良い生徒をより多く集めることは、高校および学園の将来にとって必要なことなので、学校説明会や外訪等の活動に関してはこれまで同様、全教職員で取り組むこととする。

3. 校舎のリニューアル工事

平成 25 年度は 1 号館をリニューアルさせていただいた。当初は耐震補強が目的であったが、単なる補強にとどまらず、全面的なリニューアルとすることができた。おかげさまで生徒たちにとっては、快適に学習できる環境が整った。生徒募集にも少なからず好影響を与えるものと考えている。残る校舎のうち、2 号館、視聴覚棟、3 号館、体育館は、古い建築基準で建てられているため、耐震診断が必要である。平成 25 年度はこのうち、体育館以外の建物の耐震診断を実施した。その結果、耐震補強が必要との診断を得ている。残った教室で授業を続けながらリニューアル工事を実施する都合上、平成 26 年度は 2 号館および視聴覚棟のリニューアル工事を実施する予定である。

4. 財務基盤の改善・強化

残念ながら高校単体での収支は、構造的な赤字体質から脱却できないでいる。今後は新たにリニューアル工事の費用負担が増える。改善のために、まずは単年度収支を均衡させなければならない。そのためには、生徒数の増加により収入を増やすこと、クラスサイズを適正化し効率化を図ることを常に心がけなくてはならない。

コスト面で大きな負担になっているのが、学力特待、スポーツ特待などの奨学金、および通学バスに係る費用で、合わせて 8,000 万円余りになる。

奨学金については、今年度 20 パーセントの削減をしたが、平成 28 年度までに平成 25 年度対比で半減とすることを目指したい。

通学バスについては、平成 29 年度からの有償化することを次の生徒募集段階から告知し、全学年一斉に有償化する予定である。

奨学金の削減、通学バスの有償化ともに、生徒募集に悪影響を与えるので、どの程度実施するかを慎重に検討しながら進めてゆく必要がある。

以上